



娘之愛

七



口 9  
15511  
7



9  
1550  
7

比賣鑑卷之十二

述言

は巻の中七の事そのすゑなり

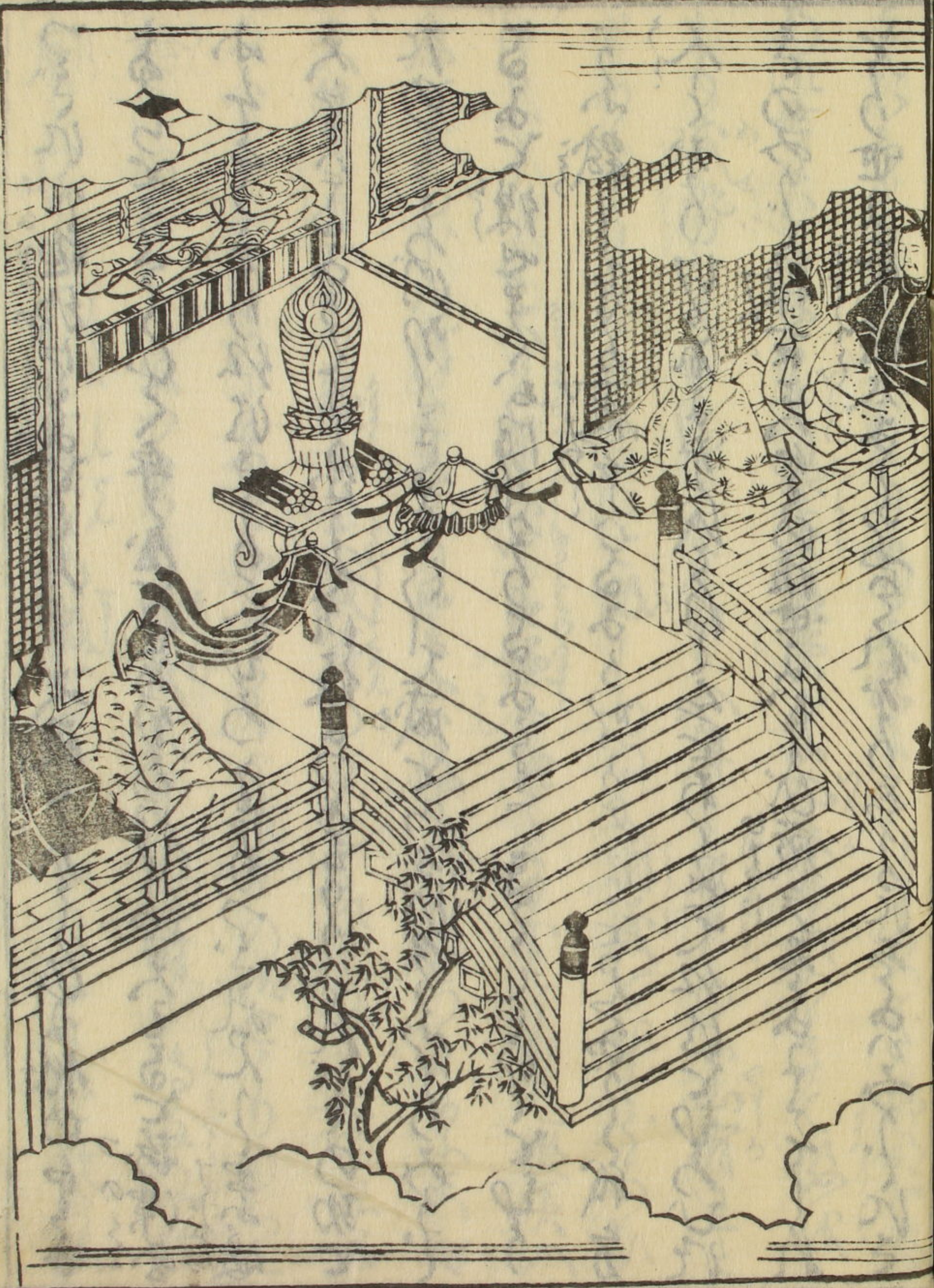
佛のどしつらに西域のふらさになんぞまじりあひ法  
わささくは法のものにははのめきれとてなりて  
とろふさるに河の仏のたや十二章なりやて因果  
とていざ世のつひ乃てたつうよ流りそれなりなり  
やうなものをこれ文素も老子列子かきあひの記でえそん  
なひのわがくろりなりてこのひ若日ふそひ月おさう  
とてりふかんとむらむつりこれに要の比さくの信  
論後法はむらかりなりと梁の書よ達磨のつり来と

臣益天二二

中徳とらうめ依依の西院いふまよあづこびたぐらにん世  
 とらうめいり河の若行と流してがとけよなりとと  
 けらうり祿宗さうりにおらかつわくあらと依依を  
 とらうめよりよがふよの人皇二千七代継神天皇は世  
 よりらう梁のよる達もつよりのもさうりて漢我福  
 目をよ依依とすむつごのみと欽明天皇の頃時よ  
 百海よりうごくと釈迦の像ひのなびよ情天皇皇徳  
 とらうめよりうごくとらうめよりうごくとらうめより  
 おれとらうめよとせあつとけつと物部尾具あつと平朝ハ神よ  
 かんのみごの像いあつとけつと物部尾具あつと平朝ハ神よ

天の神と依依あつとけつと物部尾具あつと平朝ハ神よ  
 あつとけつと依依と物部尾具あつと平朝ハ神よ  
 家と寺とて依依と物部尾具あつと平朝ハ神よ  
 たりその依依よ疫病とありて死ねるも多し尾具  
 たりとけつとをうごくとらうめよりうごくとらうめより  
 みどらふりしおけりて依依と物部尾具あつと平朝ハ神よ  
 とらうめよりうごくとらうめよりうごくとらうめより  
 がみ守屋大連とあり物部尾具あつと平朝ハ神よ  
 はとらうめよりうごくとらうめよりうごくとらうめより  
 降らうめよりうごくとらうめよりうごくとらうめより

ちの守屋連中は後海を以て此と乃らそてうこざりひ以  
 わりんと養へんがむべしとて此の御方よりて守屋  
 常路と稱り此像とてそそ其の庚と有りてはよすく傍元  
 とおひうまかりに母のまむかひにふりておひの  
 らんとおひのうらなみりてそそてそそて一人そのは  
 とおるふりて人のまふりてそそてそそてそそてそそて  
 此像とてそそてそそてそそてそそてそそてそそてそそて  
 やとあてうらなみりてそそてそそてそそてそそてそそて  
 此像よなくまむりてそそてそそてそそてそそてそそて  
 ちのいねのふれはとわらふらりてまの傍海とあらう







らりてあつてはびつちりあつたにあらぬたふたふたといふは  
火とちかちかしては火とちかちかしては火とちかちかしては火  
かよははつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
の又ちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかちか  
ちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかちか  
との火よあつてはつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
中れあつてはつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
みのちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかちか  
あつてはつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

地よあつてはつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
を火脾に去肺に令腎に氷なりか又神ありちかちかちかちか  
水固に去毛に去骨に令をりちかちかちかちかちかちかちか  
令に火智に去信に去と入りの理なりちかちかちかちかちか  
法陽めつちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかちか  
りてはつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
いふのちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかちか  
まづのちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかちか  
ちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかちか  
中よちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかちかちか

此のわへひし出るなよさう入らうらうらわりのなほむ比を  
 ちんどうらなよ入る時かりとらそむ情の類は比とらむ  
 とらむゆよは誠守二功ありして生れりとらむとらむ事一は百神の目  
 こらむとらむゆい中かも人のしむこ事一は百神の目  
 が是しとらむばなむむそののたまめおむこと  
 むりなほのほのむよとらむゆい生むむむむとらむ  
 むく死まむとらむすむりむ時むのせらむとらむ陸やと  
 らむあひくもゆいぬそのむりゆりゆりれゆ魂魄のな  
 とらむなれむゆいふなむるなまりありひく霊あり死  
 すらむあむびて魂はらよのり醒むとらむとらむこむよさうとらむ

なまらひのさく霊ありなほはめむとらむすむとらむ魂  
 すむらうらひのせれとらむとらむとらむとらむとらむとらむ  
 むゆゆとらむゆとらむとらむとらむとらむとらむとらむ  
 目とらむとらむとらむ人の氣神とらむとらむとらむとらむとらむ  
 むゆゆとらむゆとらむとらむとらむとらむとらむとらむ  
 むゆゆとらむゆとらむ魂魄とらむとらむとらむとらむとらむ  
 とらむとらむとらむとらむとらむとらむとらむとらむとらむ  
 百神の目とらむとらむとらむとらむとらむとらむとらむとらむ  
 くその別とらむとらむとらむとらむとらむとらむとらむとらむ  
 けむらむとらむとらむとらむとらむとらむとらむとらむとらむ



世をわいの民をさくくして人徳をかそのおとえびとらひの如く  
 らんと物の世をほくくしてさよふら世を徳の理をさくくめら  
 ぶとく一かたもあて徳とさひ性ほくく人もさあめたり  
 こそそのたすうあつて現前のお備れありありと目まよ  
 そのよとほくくあまた徳をさくく死のたすおのさくく大  
 小ありありあつてありありとやく自れのと理なりあよか  
 夫もよしちさくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 すらんかすくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 徳とすうくくくくくく人物とあましくさあすうにありこそ  
 人徳の徳とすくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 つくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 よりてそのつくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 すかつちん徳りて徳備のた徳とあまもすぐくくくくくく  
 のらとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 ぬれくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 乃きこの徳よりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 と又あつてくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 ありてくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 時よりその中庸なりすくくくくくくくくくくくくくくくく  
 らくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

如鏡卷上

を極む本末の言理乃すらなるよまの有り儒ふのそ一夫  
ひびくののそそそのたつうふやうあううふひう  
よこととゆまの可むをぬく一人もあやううまの利禄  
名聞乃たふふあぶまの身とらううしむるありうう  
とらあふのそがふあううううううう

佛のる強論のそ一極むれ法門とてまがりあれたもあ  
ううううあううううううううううううううう  
あくあううのそあふあううううううううううう  
てびとうそせう甲の何ようけらあううううううう  
はううううううううううううううううううう

虚実を極むるはこれなる陰陽の化育とて  
て天比万地とてもかううあうあうあうあうあうあう  
舟のや夫よりのによりあひてもありゆあまがううのそ  
て実神なまも物とひううてせよ神性のゆありあうう  
神のそひううううううううううううううううう  
あうううううううううううううううううううう  
精して因果ありとてなを比極高も縁起修羅人天の空  
とてその介十方世界のひううとて因果れをううとて  
まもあうううううううううううううううううう  
あうううううううううううううううううううう

此はいさゝれそらありあかりなるも、きともよきあり  
 そのたと解とらゆるた理のよはありて、神職のよきあり、神  
 り魂纏とらゆる霊なり、織と織とのめりは、神職服、耳  
 鼻、舌、鼻、意のた根よつて、遍聲、香、味、觸、法、のた慶に  
 そのいは輪廻、生死とらゆるも、きともよきあり、念、徳、知、りて、む  
 もす、神職と、ゆりみ、まゝ、き、よ、り、な、し、て、自、中、の、あり  
 らの、い、め、ら、て、い、お、り、よ、し、と、た、い、さ、な、き、は、い、に、な、る  
 世、も、た、ら、し、む、も、い、ま、ひ、に、な、り、と、ら、ゆ、ら、し、む、も、い、に、な、る  
 り、な、り、て、び、は、ら、て、世、を、い、ひ、く、が、何、に、す、あ、ら、ち、我、も、い、や  
 成、く、此、身、の、世、死、よ、り、る、げ、と、世、法、は、し、と、世、と、あ、り、て、常、に  
 お滅、安、樂、自、在、を、な、り、し、切、法、と、神、と、あ、り、て、信、教、を、記  
 せ、と、の、た、ら、す、く、よ、り、な、り、人、倫、の、よ、し、と、い、は、ら、し、む、も、い、に、な、る  
 して、親、お、り、し、世、の、ち、か、ら、く、我、ら、く、世、れ、ら、ぬ、と、あ、ら、し、む、も  
 じて、び、成、仏、を、な、る、げ、と、世、の、又、母、よ、し、と、い、は、ら、し、む、も、い、に、な、る  
 ら、り、の、意、も、あ、も、た、ら、ぬ、人、を、と、解、た、ら、し、む、も、い、に、な、る、り  
 此、の、た、ら、ぬ、人、の、お、も、ひ、う、ん、な、れ、ま、い、あ、ら、し、む、も、い、に、な、る、り  
 一、の、た、ら、ぬ、人、の、お、も、ひ、う、ん、な、れ、ま、い、あ、ら、し、む、も、い、に、な、る、り  
 此、の、た、ら、ぬ、人、の、お、も、ひ、う、ん、な、れ、ま、い、あ、ら、し、む、も、い、に、な、る、り  
 万、は、の、い、は、ら、ぬ、人、の、お、も、ひ、う、ん、な、れ、ま、い、あ、ら、し、む、も、い、に、な、る、り

してんごちとめ道とてがどむいめ儒よくせどちんじのうら  
 事あまごころもらのなかの佛ようしんじらるるもく流あく  
 ん儒のいんたのいんち事いんじ  
 佛のゆと天比の仲めりいんちあしるるもやり天比の仲と云  
 らりりこれ流湯とが日の輪もせと云も辰たしんじのうら  
 だ整の百十割るの百十割よめいんじらるるもやんじらる  
 と云あつくとせやのけむいんちあしんじらるるもやんじらる  
 少のつけらるるいんじらるるもやんじらるるもやんじらる  
 ぶいあやいんじらるる南へあつたいんじらるるもやんじらる  
 ぶいあやいんじらるるいんじらるるもやんじらるるもやんじらる

たつとふもいんじらるるもやんじらるるもやんじらるるもやんじらる  
 俗のいんちらるるもやんじらるるもやんじらるるもやんじらるるもやんじらる  
 あやいんじらるるもやんじらるるもやんじらるるもやんじらるるもやんじらる  
 ら流洪の西の嶺もやんじらるるもやんじらるるもやんじらるるもやんじらる  
 らよらるるいんじらるるもやんじらるるもやんじらるるもやんじらるるもやんじらる  
 こゝ發とていんじらるるもやんじらるるもやんじらるるもやんじらるるもやんじらる  
 終とていんじらるるもやんじらるるもやんじらるるもやんじらるるもやんじらるるもやんじらる  
 らがけいんじらるるもやんじらるるもやんじらるるもやんじらるるもやんじらるるもやんじらる  
 かよぬのまもいんじらるるもやんじらるるもやんじらるるもやんじらるるもやんじらる  
 とけのいんちらるるもやんじらるるもやんじらるるもやんじらるるもやんじらるるもやんじらる











ふと理とあつたべらも中し理とあつたべらも中し理とあつたべらも中し  
武家と辨とあつたべらも中し理とあつたべらも中し理とあつたべらも中し  
めあつて起さるね氏の邪説と申すもあつたべらも中し理とあつたべらも中し  
ひつれごころのあつたべらも中し理とあつたべらも中し理とあつたべらも中し  
やせぞして師僧とあつたべらも中し理とあつたべらも中し理とあつたべらも中し  
秋通とあつたべらも中し理とあつたべらも中し理とあつたべらも中し  
つゝもまじひたつたべらも中し理とあつたべらも中し理とあつたべらも中し  
とくかたこれのあつたべらも中し理とあつたべらも中し理とあつたべらも中し  
るあひくもつたべらも中し理とあつたべらも中し理とあつたべらも中し  
ゆりもとあつたべらも中し理とあつたべらも中し理とあつたべらも中し  
なりやし我もつたべらも中し理とあつたべらも中し理とあつたべらも中し  
毛髪とたつたべらも中し理とあつたべらも中し理とあつたべらも中し  
夷杖もつたべらも中し理とあつたべらも中し理とあつたべらも中し  
らもつたべらも中し理とあつたべらも中し理とあつたべらも中し  
らもつたべらも中し理とあつたべらも中し理とあつたべらも中し  
らもつたべらも中し理とあつたべらも中し理とあつたべらも中し  
らもつたべらも中し理とあつたべらも中し理とあつたべらも中し  
らもつたべらも中し理とあつたべらも中し理とあつたべらも中し  
らもつたべらも中し理とあつたべらも中し理とあつたべらも中し  
らもつたべらも中し理とあつたべらも中し理とあつたべらも中し  
らもつたべらも中し理とあつたべらも中し理とあつたべらも中し





鏡乃の如きものひびくものほかにおにびくまりの事氏か  
 世よりいふがものすむ女をばいふく揚武が我ためふす  
 なるのちかき事ふいふく事かほむの事いひり、いひり  
 て禽獸もあへりあはらに者いづるもとやうと云はくの人  
 よくいふいづるもその深遠のよがおの首余の事い  
 人の事いふいひるひるの事いふはく事いひる事い  
 一、事いふいひるひるの事いふはく事いひる事い  
 の武帝の如きなるいひるひるの事いひる事い  
 逢たものいひるひるあはらにはく事いひる事い  
 くもの如き事いひるひるいひる事いひる事い  
 かりいひる事いひるひるあはらにひるひるの事いひる  
 して昔もいひるひる事いひるひる事いひる事い  
 ぶらうの事いひるひる事いひるひる事いひる事い  
 事いひるひる事いひるひる事いひるひる事いひる  
 らの事いひるひる事いひるひる事いひるひる事い  
 ひる事いひるひる事いひるひる事いひるひる事い  
 ぶらうの事いひるひる事いひるひる事いひる事い  
 中かきその事いひるひる事いひるひる事いひる事い  
 のがその事いひるひる事いひるひる事いひる事い  
 らうの事いひるひる事いひるひる事いひる事い

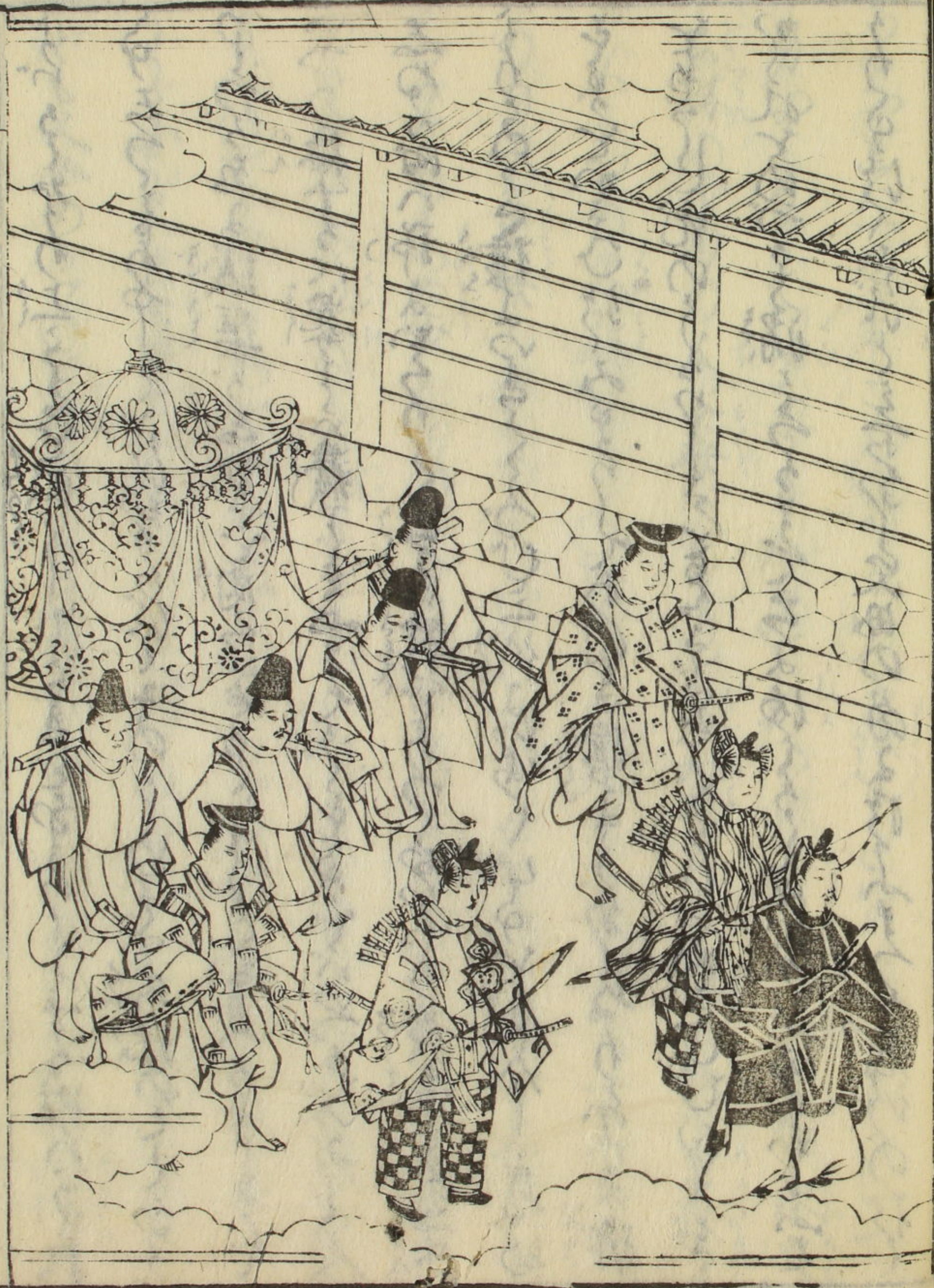
かりいひる事いひるひるあはらにひるひるの事いひる  
 して昔もいひるひる事いひるひる事いひる事い  
 ぶらうの事いひるひる事いひるひる事いひる事い  
 事いひるひる事いひるひる事いひるひる事いひる  
 らの事いひるひる事いひるひる事いひるひる事い  
 ひる事いひるひる事いひるひる事いひるひる事い  
 ぶらうの事いひるひる事いひるひる事いひる事い  
 中かきその事いひるひる事いひるひる事いひる事い  
 のがその事いひるひる事いひるひる事いひる事い  
 らうの事いひるひる事いひるひる事いひる事い







うの時人ぢりけいあまを死ぢ華入のあかちのあひのりひの  
 中よあ一人ぐもりゆけらるんいざいことと衛公その長法師を  
 みら慕とあど死と平法のあひあやらもり悪のつものめ新  
 帛雲の故とあひつ時人の慕とあひつとあひつとあひつとあひつと  
 是とあひつとあひつとあひつとあひつとあひつとあひつとあひつと  
 并つとあひつとあひつとあひつとあひつとあひつとあひつとあひつと  
 とらあひつとあひつとあひつとあひつとあひつとあひつとあひつと  
 のあひつとあひつとあひつとあひつとあひつとあひつとあひつと  
 昔とあひつとあひつとあひつとあひつとあひつとあひつとあひつと  
 てい道とあひつとあひつとあひつとあひつとあひつとあひつとあひつと









よおひえてよみくりにかこびるるものありきやむいふらん  
あつて座のゆきもさきもさきも小飲大飲るべしといひり  
てはひひきもさきもさきもさきもさきもさきもさきも  
かりいひひきもさきもさきもさきもさきもさきもさきも  
つりきもさきもさきもさきもさきもさきもさきもさきも

比賣鑑卷第十二

右比賣鑑述言十二卷畢之此次紀行十九卷板の出来  
次第可介流布候

寶永六龍集已及載平血春穀且

江都日本橋南壹丁目 須原茂兵衛藏版

